

住宅事情

英国人は住宅の外観は街並みを形成する重要な社会資本の一部であると考え、そして80%以上の住宅にある庭(イングリッシュ・ガーデン)と併せてそれらの手入れを怠りません。また内部は自分の城であり好きなインテリアでまとめています。住宅の外部と内部の手入れを続けることによってその住宅の寿命を延ばし、代々に亘ってその建物を引き継いで行けるわけで、資産価値も上げられると考えています。

一般的に英国人は就職してから数年で小ぶりな中古住宅を手に入れ、家族構成の変化に合わせて、部屋数の多い中古住宅に買い替えながら定年を迎え、ボランティア時期を過ごし、終の棲家を見つけて地方に移住すると言われています。

英国では持ち家を奨励しており、住宅ローンも仕事の種類に関わらず住宅金融組合や銀行からの住宅ローンが組める為、比較的容易に住宅を購入することができます。この背景には、住宅は100年から200年の寿命があると考えられていることから、万が一返済不能になっても住宅そのものに資産価値があるため、融資元の実損は最小に抑えることができる訳です。日本の住宅は土地本位制の為、数十年経った建物の価値は極めて小さくなる為、事情が異なると思います。

イギリスの住宅の種類

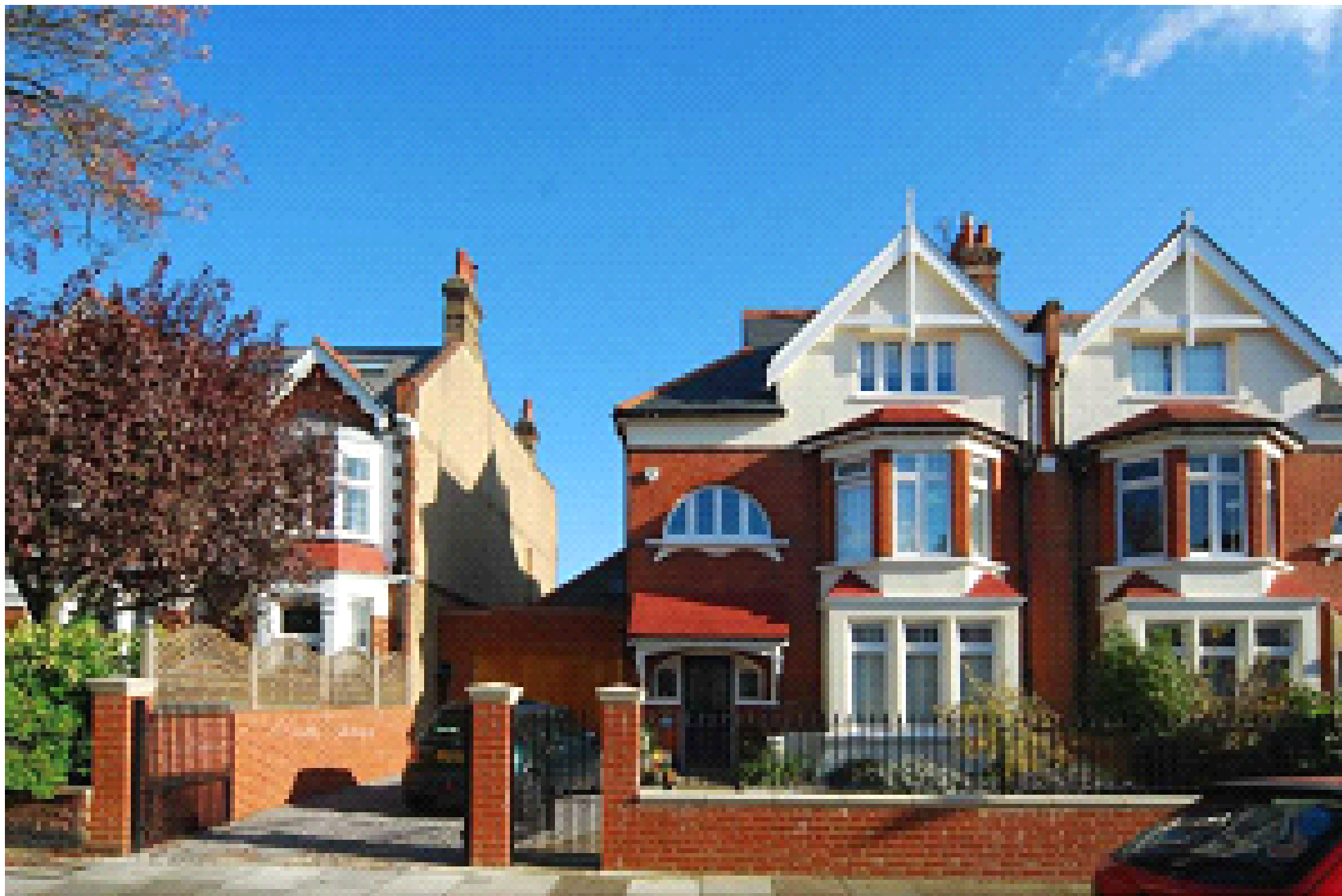
- デタッチハウス(一戸建庭付2階建) 22.5%
- セミデタッチハウス(二戸建庭付2階建) 32.0%
- テラスハウス(庭付2-3階建) 27.8%
- 庭付住宅 **82.3%**
- フラット(マンション・集合住宅) 16.5%
- その他 1.2%

出所 : Survey of English Housing 2006/07

英国は主に4種類の住宅があり、特に集合住宅以外はすべて庭付きとなっています。この為、庭には芝生を中心にりんごの木に代表される果樹や花壇があり手入れに余念がなく一年を通じてガーデニングライフを楽しんでいます。特に4月から10月にかけては芝生の成長が早いので1~2週間毎の芝刈りは主人の大切な仕事になっています。



築後約150年以上のデタッチハウスと呼ばれる一戸建て住宅、前庭と大きめの後庭が付いている。屋根の暖炉用の煙突が建物の古さを物語っています。



築後約150年以上のセミデタッチと呼ばれる2戸建て住宅で、前庭と大きめの後庭が付いています。屋根の暖炉用の煙突が建物の古さを物語っています。



築後約200年以上のテラスハウスと呼ばれる長屋で、小ぶりな前庭と大きめの後庭が 54
付いています。レンガの色と各屋根の暖炉用の煙突が建物の古さを物語っています。

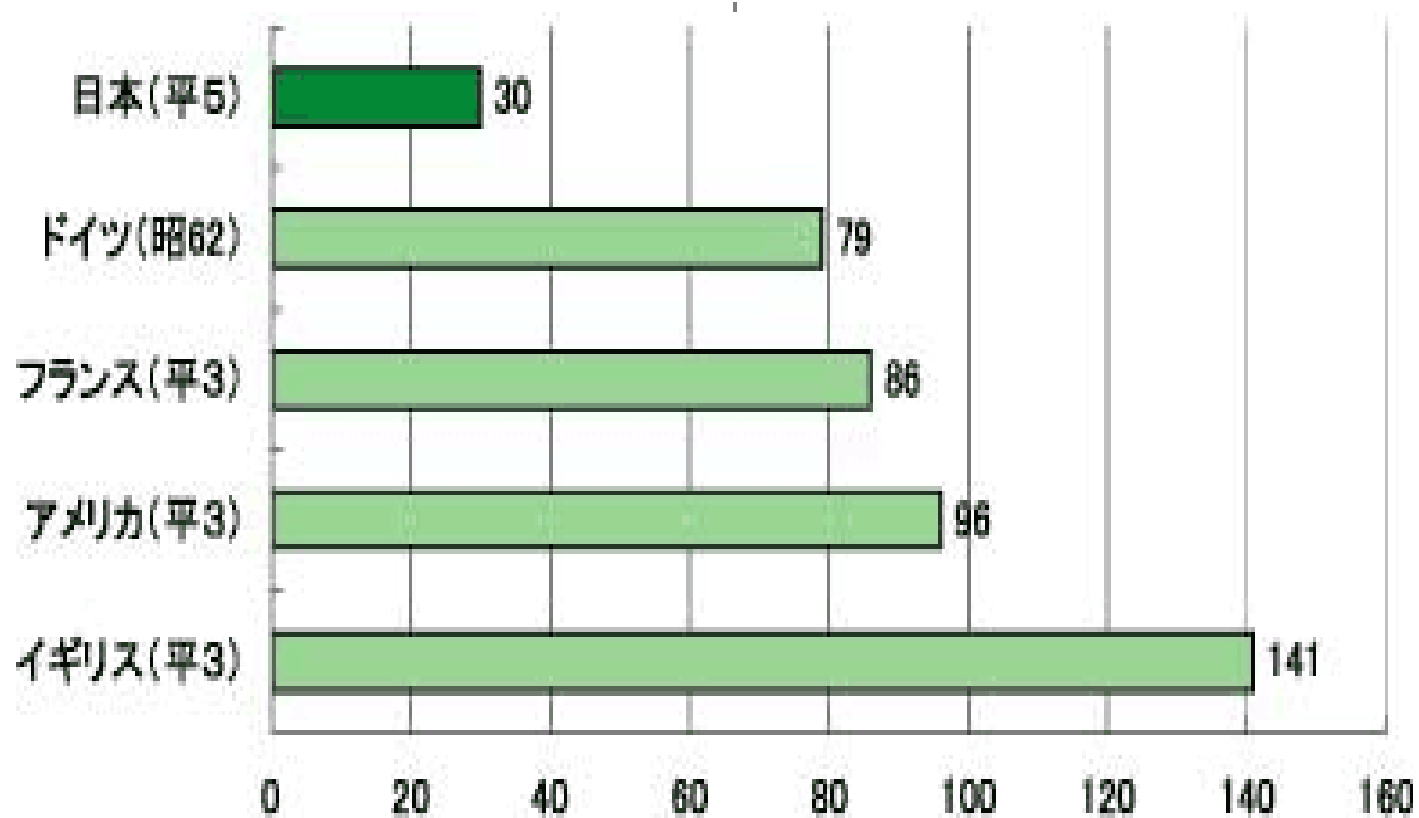


築後約50年のタウンハウスと呼ばれる長屋。それぞれに小ぶりの前庭と広めの後庭が付いています。車社会の到来でビルトイン車庫が特徴です。



戦後に建てられた公営の集合住宅です。日当たり配慮した建物の配置と緑豊かな公園風の庭とスポーツ施設が付いています。

住宅の平均寿命の国際比較



出所: (財)建築環境・省エネルギー機構 国連「Annual Bulletin of Housing and Building」

住宅の平均寿命の国際比較の補足説明

英国の住宅の平均寿命141年に対して日本は僅か30年、この事は、日本はスクラップ・アンド・ビルドを繰り返していることになります。住宅を建てる時も壊す時も多くのエネルギーを費やしCO2を排出します。

また、30年の寿命は一代限りでその住宅に対しての愛着も薄くなります。本来、代々に亘って住み継がれて行くことは社会資本を守り継承されて行くことになります。このことは投下する社会資本の無駄を省くことにもなります。

英国は産業革命時から始まった社会資本を充実させた都市造りと街造りの基本コンセプトを確立し、今日に至っているのに対して、日本は都市計画は「あつて無きが如し」で「コンセプトのない行き当たりばったり」の都市造り・街造りとなっています。

日本もこれから100年の大計を持って、街造りのグランドデザインを描き、それにのって木の良さを生かした地産地消で災害に強く寿命の長い木造住宅を造ることが、日本にとって最善の選択だと思えます。

日英の住宅省エネラベルの比較

日本(任意)



住宅省エネラベル

戸建 総合省エネ基準:適
断熱性能基準:適
登録建築物調査機関評価/平成 年度

イギリス(強制)

エネルギー効率の表示

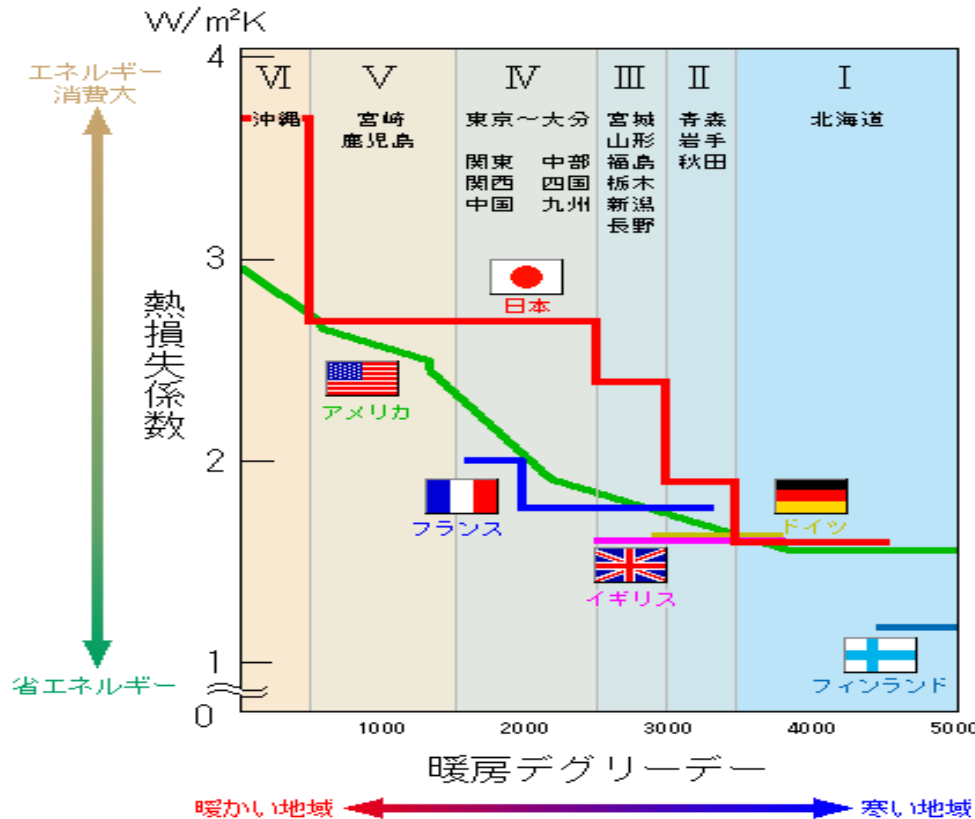
Energy Efficiency Rating		Current	Potential
Very energy efficient - lower running costs			
(92-100) A			
(81-91) B			
(69-80) C			73
(55-68) D			
(39-54) E		37	
(21-38) F			
(1-20) G			
Not energy efficient - higher running costs			
England & Wales		EU Directive 2002/91/EC	

CO2排出量の表示

Environmental Impact (CO ₂) Rating		Current	Potential
Very environmentally friendly - lower CO ₂ emissions			
(92-100) A			
(81-91) B			
(69-80) C			69
(55-68) D			
(39-54) E			
(21-38) F		31	
(1-20) G			
Not environmentally friendly - higher CO ₂ emissions			
England & Wales		EU Directive 2002/91/EC	

日本の新築住宅向けの住宅省エネラベルは2009年に制度化されたが、任意で罰則規定もない為、形骸化し、まったく見ることはありません。それに対して英国は2007年にCO2削減策の一環として法的拘束力を持って発足し、新築と中古住宅の売買時と更に賃貸契約時に提示が義務付けられ、罰則規定もあります。

住宅の断熱性能の国際比較



出所: 建築技術2006年8月号

住宅の断熱性能は省エネ性を向上させる重要な事項であります。日本の場合、北海道と北東北地方の住宅の断熱性能はヨーロッパ並であるが、人口の80%を占める東日本から西日本にかけての住宅の断熱性能は英国、ドイツ、フランスのそれと比較しかなり劣っています。国策として住宅の省エネ性能を高めるべく断熱性能の向上に法的拘束力を持って果敢に対処し、京都議定書で約束したCO2削減を達成すべきだと思います。

休暇（ホリデー）事情

英国人は「休暇を取る為に働き、休暇は働く為に取る」、また「休暇を取らないのは入院中の患者と囚人」だと言われるくらいに英国人にとっては最も大切な年間行事の一つとなっています。さて、日本人はどの様に休暇を取っているか……。

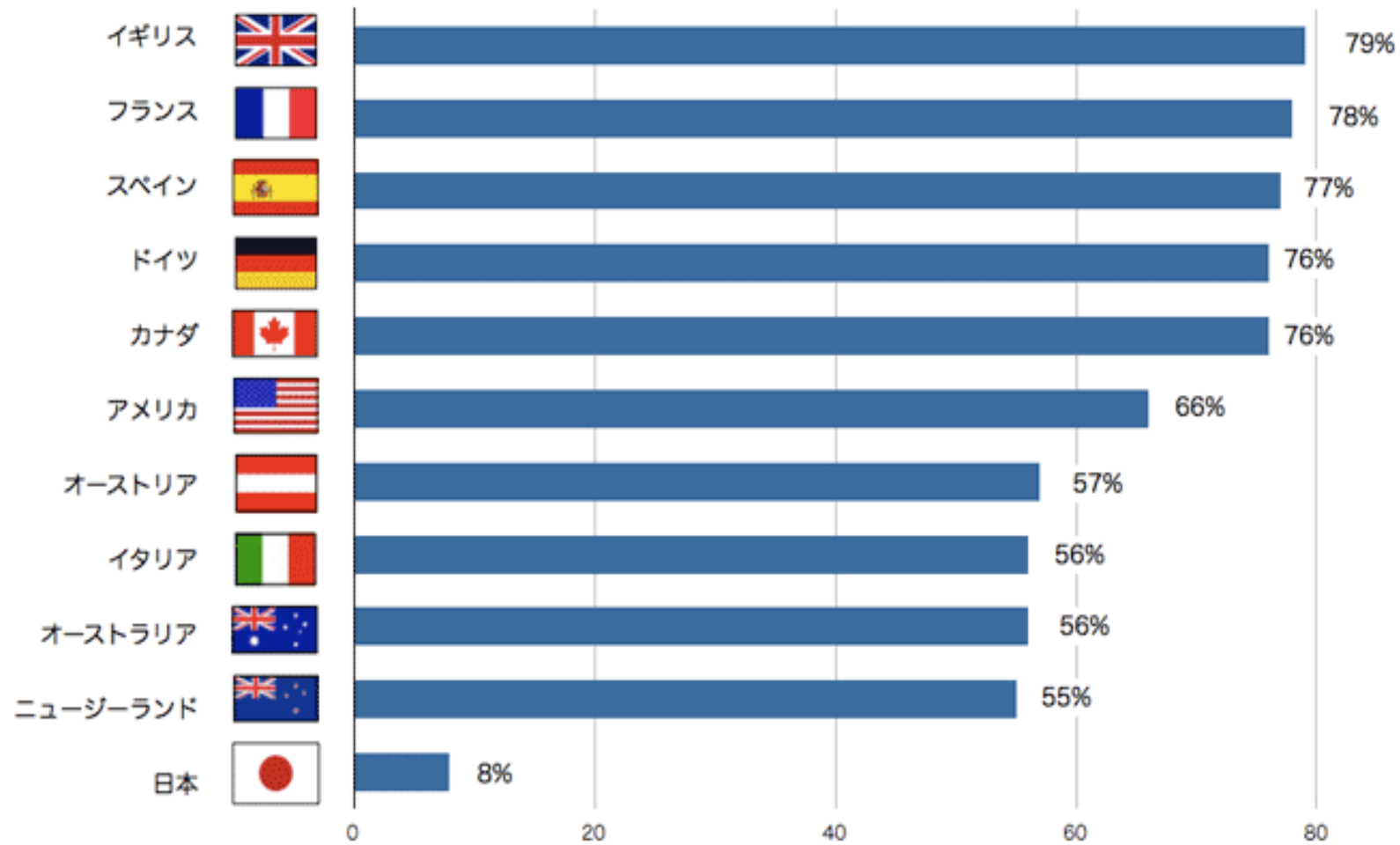
主要国の平均有給休暇日数

	<u>日数</u>	<u>取得日数</u>	<u>消化率</u>
• フランス	37.4日	34.7日	92.7%
• ノルウェー	27.7	25.6	92.4
• ドイツ	27.6	25.5	92.3
• イギリス	27.9	25.5	91.3
• スウェーデン	27.4	24.2	88.3
• アメリカ	16.9	14.0	82.8
• 日本	16.6	9.3	56.0

出所: Expedia 2010年調査

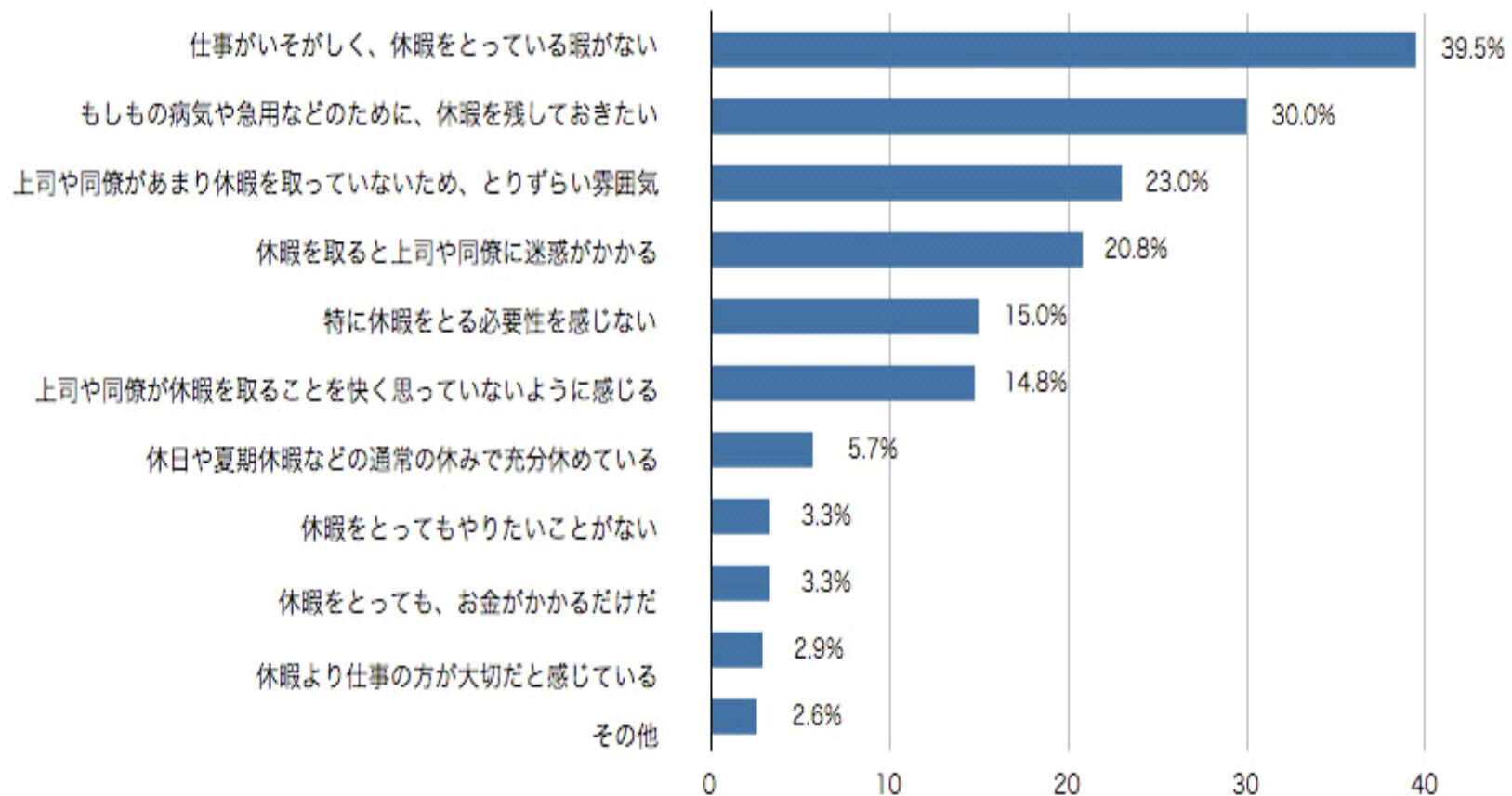
さすが西欧諸国は有給休暇の日数も消化率も日本より高いですね。
日本が西欧並になるのは何時になることやら……。

有給休暇をすべて取得した人の割合



日本はどうも有給休暇が取りにくい社会なのか……。

日本人の有給休暇がすべて 取得できない理由



日本ではとにかく経営者が率先して休暇を取り、従業員に心置きなく休暇が取れる環境造りが必要です。

海外旅行の国際比較(2005年)

出所:世界観光機構(UNWTO)

	人口 万人	海外旅行者数 万人	対人口比 %	外国人入国数 万人
英国	6,156	6,649	108.0	2,775
ドイツ	8,216	7,740	94.2	2,013
アメリカ	31,465	6,350	20.1	4,605
中国	134,750	3,103	2.3	4,176
イタリア	5,987	2,335	39.0	3,707
フランス	6,242	2,227	35.6	7,512
カナダ	3,357	2,110	62.8	1,915
日本	12,715	1,740	13.6	613
韓国	4,833	1,008	20.8	581
スペイン	4,490	450	10.0	5,360

英国やドイツは海外旅行者が突出して多いですね。逆にフランスやスペイン、イタリアは外国人入国者数が海外旅行をする国民よりも多く、観光立国の実態を表しています。

日本は海外旅行者数も外国人入国者数もまだまだ少なく国際化が遅れています。

家庭と家族

英国人の家庭と家族を大切にする気持ちには、日本人は学ぶ必要があると思います。

英国の家庭と家族 ①

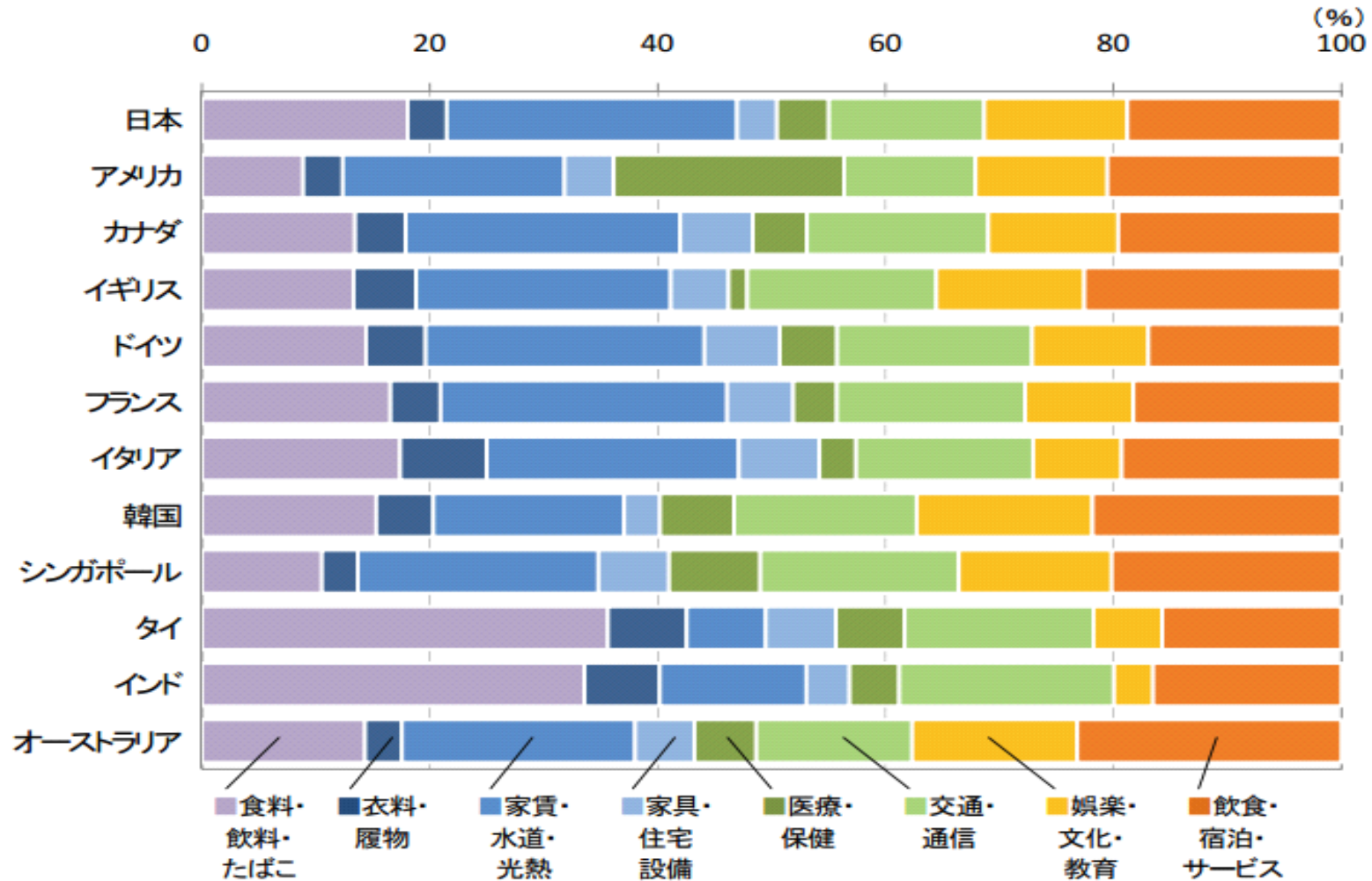
- テレビは親が決めた子供番組のみ視聴
- 子供は夜8時までに就寝
- 就寝前に親による読み聞かせ
- 休日は家族全員での食事
- 食事中の家族との会話
- 挨拶 (Good Mornig, Good Afternoon, Good Evening, Good Night)
- Thank you, Excuse me, Sorryの徹底
- Gardeningからの教え (花や草木や生物等)
- 犬、猫との触れ合い、りすや狐との係り

英国の家庭と家族 ②

家族の重要な年間行事

- 年間4週間のホリデー
- クリスマスホリデー等の休日
- 誕生日
- 結婚記念日
- 母の日、父の日
- 教会での祈り
- ローカルフェアへの参加

9-1 家計消費支出の構成（2009年）



英国で支出の多いのは飲食・宿泊・サービス、つまり休暇や旅行が多く、医療・保険が少ないのは医療の無料化が大きく貢献しています。アメリカの医療・保険費の出費の多いのは、やはり医療保険が無い為ですね。日本は医療関係の支出が英国の約4倍あるのは、国民皆保険と言っても、医療費の3割負担が大きく影響している様です。また家賃・水道・光熱費が多いのはエネルギーコストが高い為と思われます。

教育

子供は社会の原石であり国の宝でもあります！ 光り輝くかどうかは家庭、学校、社会での継続した教育次第、果たして英国の教育事情は？

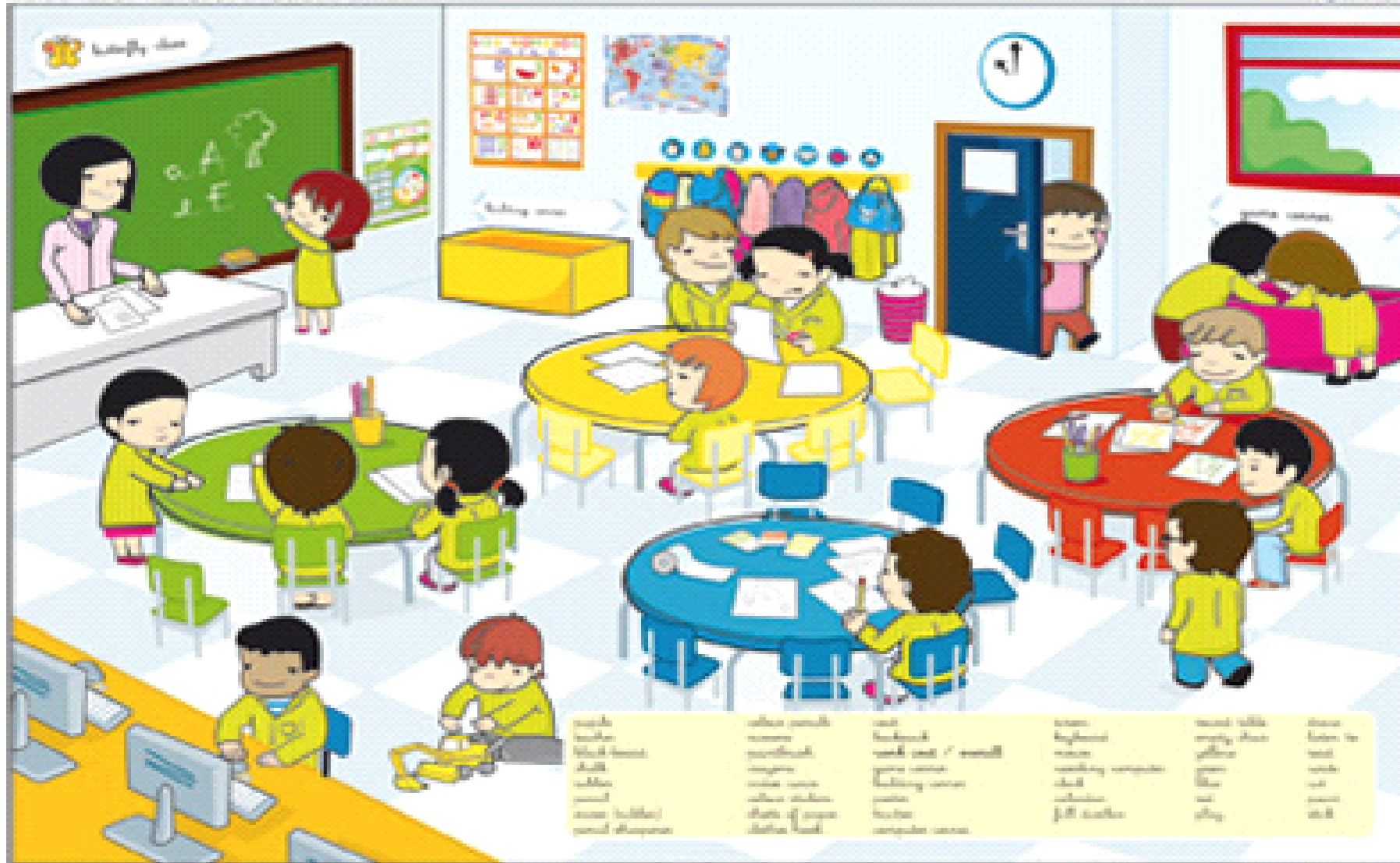
英国の学校教育①

学校は学力向上と人間形成の場

- 国語教育の強化(PCの発達、書く機会の減少)
- 子供の個性の尊重(個性・特技を生かし育てる)
- 20名位の少人数クラス
- 小学校の教室は島型机配置
- 教科書は教室に備え付け
- スピーチとディベート(自分の意見を言う)
- プロジェクト(生きた社会勉強)

英国では教室で一人の先生が生徒一人一人の個性、能力、学力、健康状態、家庭事情等の全てを把握し指導出来る限界は20名と考えられています。

THE CLASSROOM



英国では島型机配置が原則で、教師が能力、学力、個性、得意科目等々に応じて臨機応変に席替えを実施し、とにかくほめて、ほめて、ほめまくって個々の能力の伸長を図っていると言われています。

英国の学校教育②

学校教育を支える施策

- 子供手当
- 子供の将来預金
- 父兄のボランティア活動
スポーツデイ、ドイツリップ等学校行事支援
- 10歳児までの父兄による送迎
- オープン・イブニング(夜の父兄会)

オープン・イブニング(夜の父兄会)は夕方6:00から夜中まで、教師と両親がじっくり向き合うのが目的で、子供の学業の進捗状況はもとより、ヒズンタレント(潜在能力)等についてのアドバイスも行い、子供の将来の方向付けの参考になっているようです。

英国の子供手当では

①Child Benefit (CB) 子供手当

②Child Trust Fund (CTF) 子供信託基金

の二本立てとなっている

キャメロン首相の聖域なしの予算削減策で、現在子供手当では現在凍結されていますが4月以降に復活が予想されています。

英国の子供手当(CB)の概要

- ・年齢：誕生から**16歳**まで
- ・所得制限なし
- ・イギリスに居住している事
- ・4週間毎に支払われる
但し、低所得者、生活保護世帯は毎週支払われる
- ・金額

第一子	20.30 ポンド/週 (2,740 円)
第二子	13.40 ポンド/週 (1,809 円)
第三子	13.40 ポンド/週
以下	13.40 ポンド/週

子供信託基金 (CTF) の概要①

- CTFは2005年に導入された、無税の基金
- 目的は、18歳時の進学や自立の基盤づくり
- 金額はバウチャー (CTF金券) で支給される
(生活費や遊興費等への流用の制限)
 - * 誕生年に250ポンド(33,750円)支給される
 - * 7歳の誕生日に250ポンド支給される
- 親は銀行や郵便局で子供名義のCTF専用口座を開設する必要がある

子供信託基金(CFT)の概要②

- 親や祖父母は子供が18歳になるまで、3,600ポンド/年(450,000円)まで、CFT口座に拠出することができる。
- 親は子供が18歳になるまで、一切CFT口座にタッチできない。(引き出しができない)
- CFT口座は無税扱い。

学力(リテラシー)の国際順位

出所:2006年 OECD学習度到達度調査 (57カ国 15歳)

	<u>科学的</u>	<u>読解力</u>	<u>数学的</u>
フィンランド	1	2	2
韓国	11	1	4
台湾	4	16	1
オランダ	9	11	5
日本	5	15	10
スイス	16	14	6
ドイツ	13	18	20
スウェーデン	22	10	21
英国	14	17	24
フランス	25	23	23
アメリカ	29	18	36
ロシア	35	39	34

日本の学力(リテラシー)は英国より上位ですが、私の経験から成人した英国人のロジカルな考え方とガッツには感心することが多かったです。先進国でトップクラスのリテラシーの日本、これからもノーベル賞級の発見や研究開発で世界のリーダー国になって欲しいと願っています。

世界の大学ランクTop100

出所: QS Topuniversities

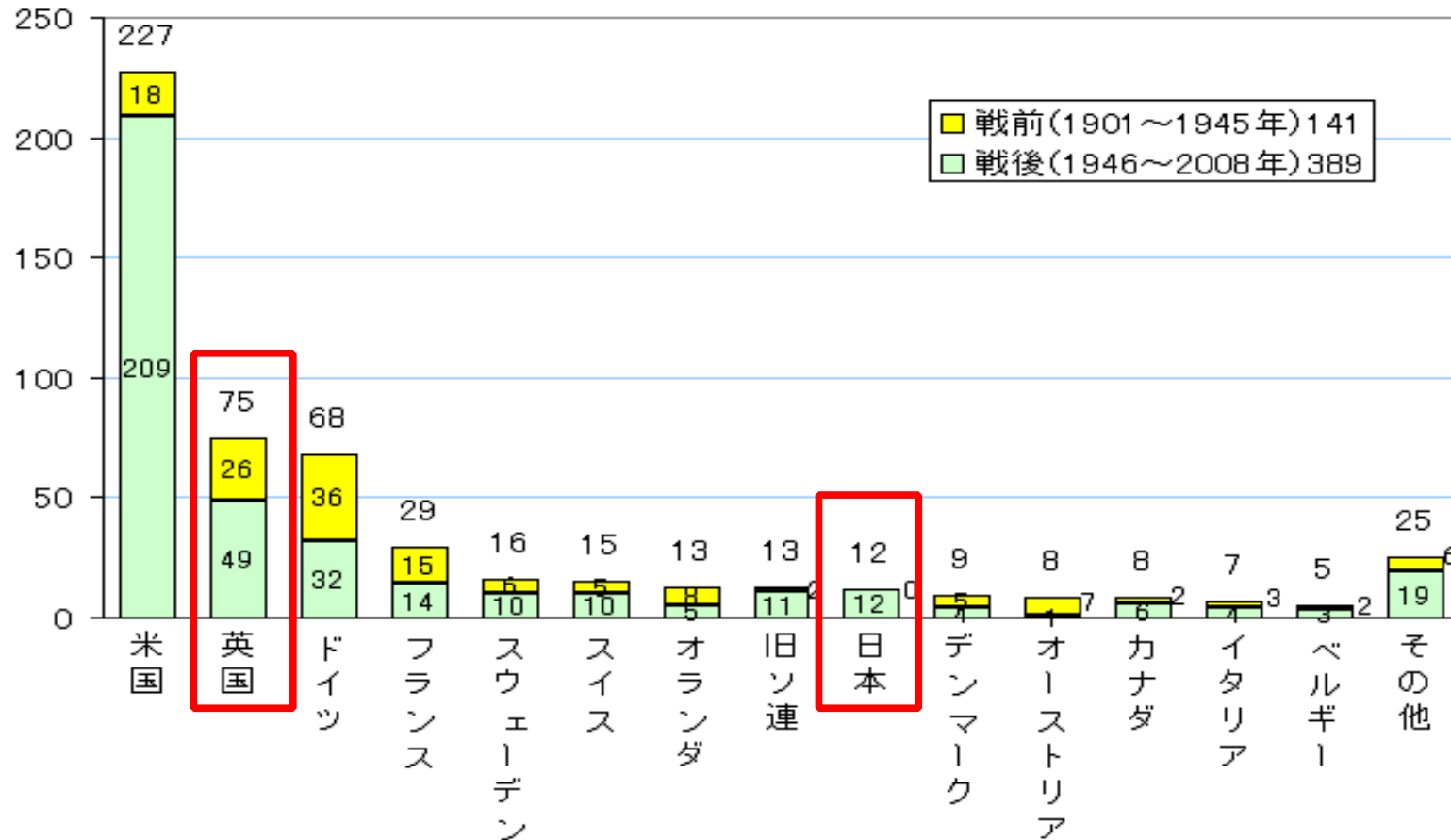
アメリカ	30校	オランダ	4校
英国	17校	香港	3校
オーストラリア	8校	フランス	2校
日本	6校	中国	2校
カナダ	4校	韓国	2校
ドイツ	4校	スウェーデン	2校
スイス	4校	その他	12校

日本の大学も学生数の減少が顕著になっている中、取捨選択された世界レベルの質の高い大学が増えることを期待したいですね。

国別ノーベル賞受賞数

ノーベル賞(自然科学分野)の国別ランキング(2008年まで)

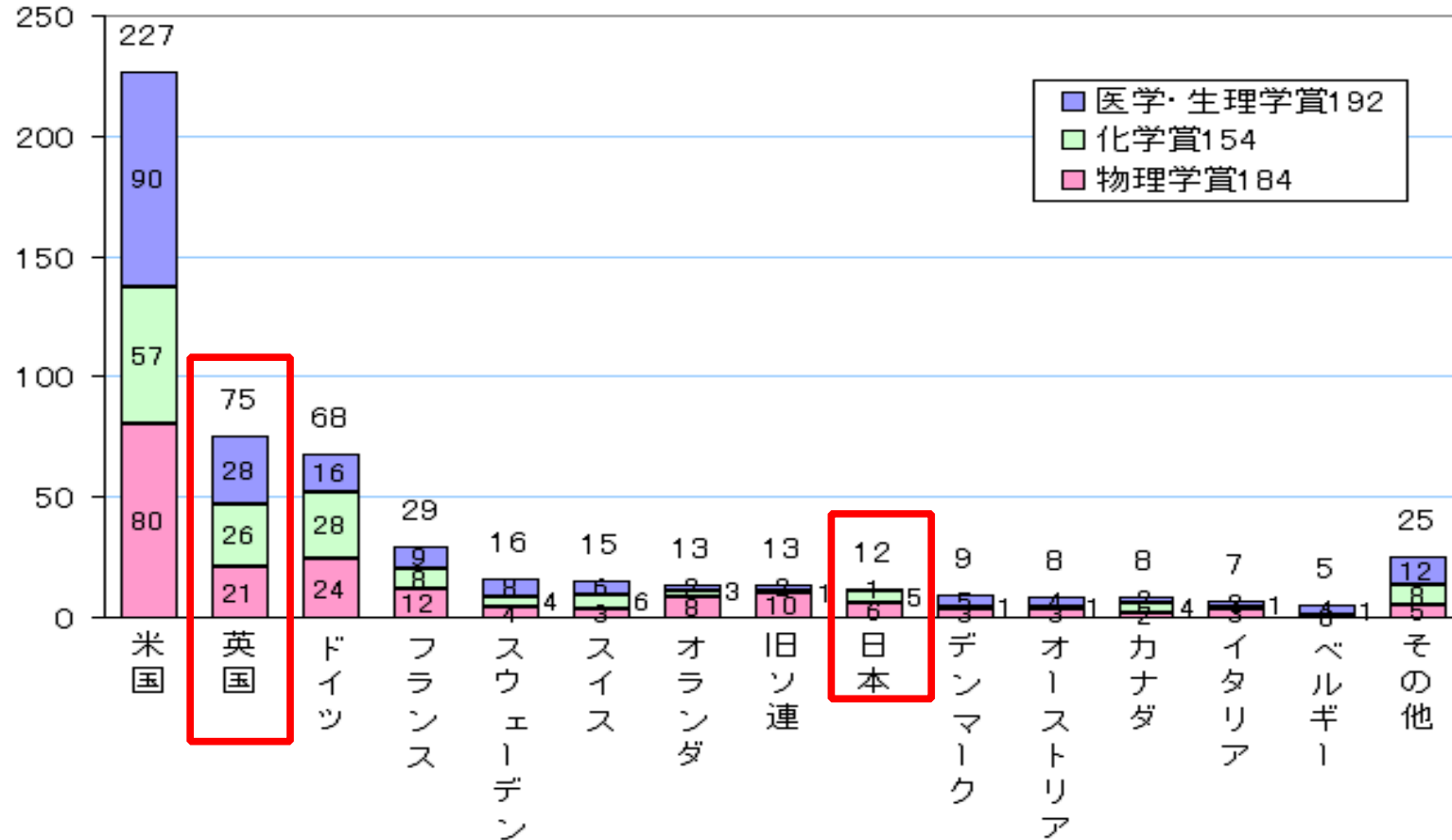
内訳: 時期別



日本は戦後からノーベル賞受賞が始まりましたが、戦前戦後を通じて英国はコンスタントにノーベル賞を受賞していますね。これは教育の成果か？

国別分野別ノーベル賞受賞数

内訳: 賞別



英国は3分野に亘って万遍なく受賞していますが、日本も山中教授のiPS細胞で医学・生理学賞で初受賞となりましたので、今後この分野での受賞を期待したいですね。

(資料) 文科省「科学技術要覧」(2008年は社会実情データ図録で追加)